

氏名	奥山倫弘
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5455号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Chronic Kidney Disease Is Positively and Diabetes Mellitus Is Negatively Associated with Abdominal Aortic Aneurysm (腹部大動脈瘤に慢性腎臓病は正の、糖尿病は負の関連が認められる)
論文審査委員	教授 伊藤 浩    教授 光延文裕    教授 四方賢一

### 学位論文内容の要旨

慢性腎臓病(CKD)と糖尿病(DM)は、心血管疾患の危険因子と考えられてきた。この研究の目的は、腹部大動脈瘤(AAA)の存在と、CKDおよびDMとの関係を明らかにすることである。

我々は2008年から2014年の間に2つの施設でAAAの存在を診断された261人の患者(AAA+)と、年齢と性別をマッチした261人(AAA-)を抽出し、持っていた危険因子とAAAの存在との関係を比較した。さらに、CKDの患者1126人とDMの患者400人を抽出し、AAAそれぞれの群でのAAAの存在について検討した。

AAA+群ではAAA-群と比較して、CKDを持っていた患者が有意に多かった(AAA+; 65%, AAA-; 52%,  $P = 0.004$ )。対して、DMの存在率はAAA+群で有意に低かった(AAA+; 17%, AAA-; 35%,  $P < 0.001$ )。多変量解析を行うと、高血圧、虚血性心疾患とCKDが独立したAAAとの関与因子となった一方、DMは独立した負の関与因子となった。65歳以上のCKD患者でのAAA存在率が5.1%であったのに対し、65歳以上のDM患者ではたった0.6%であった。

このように日本人を対象とした研究で、CKDはAAAと正の関連があったのに対し、DMは負の関連があった。

### 論文審査結果の要旨

腹部大動脈瘤(AAA)は比較的頻度が高く、破裂すると致命的になる疾患である。動脈硬化との関連性が指摘されているが、動脈硬化のリスクである糖尿病、高血圧、CKD、脂質異常症との関連は未だ十分に検討されていなかった。本研究は危険因子の中でも特に糖尿病とCKDがAAAに及ぼす影響を横断的研究から明らかにしようとしたものである。結果として、AAA患者は非AAA患者に比べて糖尿病の合併は有意に低率であった。これは過去の疫学調査から指摘されていた可能性を支持するものであった。それに対し、CKD合併例はAAA患者の方で有意に高率であり、これは新しい知見であった。AAAの発症機序に関して糖尿病とCKDの関連性に重要な知見を得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。